



2010年03月28日

【棕櫚の主日 PALM SUNDAY】



●今日は棕櫚の主日/Palm Sundayと呼ばれ、主イエスが十字架にかかれる前にエルサレムで過ごした最後の一週間の開始を告げる日です。主イエスは人が乗ったことのない子ロバに乗られ、エルサレムに入城された際、人々はナツメヤシの枝を枝ごと野原から切ってきて道に敷いたことからこの名で呼ばれるようになりました。今日から土曜日までを受難週と呼び、木曜日夜が最後の晩餐が行われた日、金曜日が十字架に架けられた受難日となります。このエルサレム入城は将来、再び主イエスが戻ってこられることの「予表」にもなっていることも覚えましょう。■

【先週のメッセージより】ペテロの涙 ルカ22:31~34、39~62

●イエスは神であり、人を真実に愛しておられるので、タイミングを計って、愛をもって人の罪深いありのままの姿を示されます。イエスはあえてすべての弟子たちの前でペテロの三度の否定を予告されました。この世的な基準で言うなら、主はペテロの自尊心を傷つけ、人前で恥をかかせたこととなりますがこれが神の愛なのです。

●傷ついたペテロは、イエスに反論し「御一緒に死にます！」と誓い、つい数時間前、洗足を通して謙遜の教えを受けたばかりなのにペテロは他のすべての弟子達が躓いても自分は決して躓かない、と仲間を見下した言い方をして、高慢の地金を現わします。

●数時間後、ペテロは自分の無力と不真実を徹底的に知らされることとなります。彼の涙は愛する主

を裏切った痛み、誓ってまでイエスを知らないと言った自分の弱さと醜さ、「一番弟子」という身勝手な偶像が破壊される痛みとが入り混じったものだったでしょう。

●主の目的は聖書で「肉」と呼ばれている私たちの罪にまみれた汚れた自尊心、愚かなプライドを明るみに出し、その正体を私たちに悟らせることです。さらに、人間的な頑張りでは神に従い通すことができないことを理解させ、私たちがへりくだって主と共に歩む歩みに入るよう導くことなのです。

●そのために時として私たちは、ペテロのように「砕かれる」経験をさせられることがあるのです。日々自分の十字架を負って主イエスについて行くというのは、私たちの罪深い肉の性質を十字架につけ続けることなのです。■

